

さぬき市

No
178

令和6年11月

みんなの 総合発表会

題字：鮫川小学校

6年 せきね そうし 関根 爽司さん

9
月
定
例
会

令和5年度

決算など可決 .. 2~3

一般質問に8議員登壇 .. 5~13

研修会レポート .. 14~15

ふるさと鮫川への想い .. 16

会計別決算状況

会計別		歳入	歳出
一般会計		35億8523万円	32億1550万円
特別会計	国保	3億9816万円	3億9639万円
	事業勘定	5372万円	4571万円
	直診勘定	8494万円	7640万円
	簡易水道事業	1911万円	1649万円
	村営バス事業	4210万円	3606万円
	集落排水事業	5億233万円	5億226万円
	介護保険	1億569万円	1億135万円
	学校給食センター	4003万円	3995万円
後期高齢者医療			
合計	48億3131万円	44億3011万円	

主な事業（一般会計）

旧国保診療所解体工事	1100万円
草刈り応援隊構築委託業務	149万円
関係人口創出・拡大サイト管理システム委託業務	770万円
業務改革支援委託業務	1600万円
さめがわファンクラブ運営委託業務	99万円
第10期高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画策定委託業務	385万円
農産物加工・直売所指定管理業務	3220万円
新規就農者PR動画、PRパンフレット作成委託業務	183万円
村の魅力発掘教室委託業務	165万円
鹿角平観光施設案内標識新規設置工事	116万円
道路及び河川維持補修工事	2740万円

決算審査意見

代表監査委員 森 洋
監査委員 北條 利雄

● 一般会計・各特別会計ともに黒字決算

- ◎ 決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率については、実質公債費比率のみが該当し、6.4%で基準値を下回り健全財政を堅持した。
- ◎ 効率的な財政運営を図り、村民生活向上のため今後も引き続き各種事業を実施願う。

● 総括

- ◎ 村民税・固定資産税・国保税・簡易水道使用料等の収入未済額（滞納額）が年々増加している。収入未済額の解消に向け、引き続き納入に向けた努力をお願いする。
- ◎ 超過勤務については、各課等によって事業による繁閑はあるものの、職員全員が効率のよい職務の遂行を心がけていただきたい。



9月定例会の
あらまし

令和6年第5回議会定例会は、9月18日から25日までの8日間の会期で開催されました。今定例会は、報告2件、条例の一部改正や補正予算のほか、令和5年度会計の決算認定、人事案件など29議案が提出されました。また、一般質問では8名の議員が登壇し、様々な問題を取り上げ、村政について質しました。提出された議案は、全て原案どおり可決・同意しました。



令和5年度
決算

黒字決算を認定

補正 予算 一般会計

未来につなぐ多様な農業担い手 応援事業に350万円追加



会計別補正予算

会計別		補正前の予算額	補正後の予算額
一般会計		31億2415万円	34億7890万円
特別会計	国保	事業勘定	4億2195万円
		直診勘定	5604万円
	村営バス事業	783万円	
	介護保険	5億2870万円	
	学校給食センター	1億4万円	
	後期高齢者医療	4365万円	
	公営企業会計	簡易水道事業(収益的収入)	6688万円
	簡易水道事業(収益的支出)	8508万円	
	集落排水事業(収益的収入)	2690万円	
	集落排水事業(収益的支出)	3654万円	

主な事業(一般会計・歳出)

財政調整基金	1億2587万円	
教育施設整備基金	52万円	
積立金		
	ふるさとづくり基金	241万円
	移住定住促進補助金	40万円
	防犯カメラ設置工事 (宿ノ入交差点付近)	25万円
	新型コロナウイルスワクチン定期 接種委託業務	1180万円
	未来につなぐ多様な農業担い手 応援事業補助金	350万円
	農業用水路修復工事(水口地区)	3558万円

◆ 岡部 忠市 (再任)
令和9年9月30日

◆ 緑川 好之 (新任)
令和9年9月30日

◆ 鈴木 千春 (再任)
令和9年9月30日

◆ 人事

提出議案を徹底調査

議案調査



事業内容の説明を受けた合同議案調査

**公立学校等複合施設
基本設計業務に
8000万円**

令和6年度一般会計・特別会計・公営企業会計補正予算および令和5年度一般会計・特別会計決算認定を総務文教・産業厚生両常任委員会で調査しました。

総務文教 常任委員会

問 公立学校等複合施設基本設計業務 8000万円

答 義務教育学校校舎や複合施設等の基本設計業務委託料

問 防災行政無線情報配信システム整備業務 2970万円

答 福島県防災アプリとの連携に伴う情報配信システム増設に要する経費

問 財政調整基金 1億2587万円

答 地方財政法第7条第1項の規定による決算剰余金の2分の1を積立てる

産業厚生 常任委員会

問 工事請負費 3558万円

答 西山水口地区農業用水路修復工事費

問 簡易水道事業会計の工事請負費 253万円

答 塚本地区空気弁更新工事費

問 需要費 147万円

答 鹿角平観光牧場水源地のポンプ2台分修繕費

現地調査



蕨ノ草地区広葉樹林再生事業



大規模な地すべりが発生した内ヶ竜滝ノ下線



議員8人が登壇ズバリ!! 村政を問う!



P 6

ほうじょう とし お
北條 利雄 議員

- 業務改革
- 公共施設等の管理運営見直し



P10

くぼ き こういち
窪木 浩一 議員

- 村の自然や景観対策



P 7

みどりかわ しげる
緑川 茂 議員

- 遊休農地増加防止対策
- 学校教育の学力向上



P11

あお と よしゆき
青戸 義之 議員

- 村づくり施策と政策
- 環境整備や景観維持



P 8

もり た しげ お
森田 重男 議員

- 中山間地域等直接支払制度



P12

ほんごう ひろよし
本郷 弘義 議員

- 森林資源の利活用
- 教育施設の校舎建築



P 9

もり たかゆき
森 隆之 議員

- 介護施設の運営



P13

えんどう たかひと
遠藤 貴人 議員

- 郷土愛を育む学校教育



議事の進行

まえ た たけひさ
前田 武久 議長

一般質問は、議員の日常生活を通じて、住民の声や自身の考え方をもとに、村長、教育長などの方針を問うものです。鮫川村議会は、一人あたり90分の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。



北條 利雄 議員

問 業務改革の理由と効果測定は

答 住民の満足度の向上につなげる

質問

業務改革は、現状のプロセス(仕事を進める方法や手順)を見直す前提で、根本的、抜本的、劇的に改革する取り組みになる。組織全体の業務効率化、住民サービス満足度の向上、職員の働き方改革と長時間労働の是正、職員のモチベーション(原動力・動機)やる気、目標に向けて動くための原動力、デジタル技術(飛び飛びの数値)によって情報を処理する方法)の推進である。方針の策定、業務フロー(命令、手続き、処理の流れ)の分析、業務プロセスと再設計、実施とモニタリング(監



業務改革の重要性は待ったなし

視、観察、観測)、効果測定は。

答弁(村長)

多様化する住民ニーズなどにより業務は減ることなく、増え続けている。職員数増が困難な現状で、業務内容を精査し、より効率的な運営をせざるを得ない。改革を進め行政サービスの質やスピードを高め、住民の満足度の向上につなげる。職員の研修、時差出勤制度や時間外勤務の抑制、短時間でも成果を出せる環境や柔軟な働き方の選択体制を進める。業務を見直すことで未来をつくる仕事や村民と向

き合う時間を増やし、学び、気づきに努めモチベーションを高める。DX(散在する業務の流れのデジタル化)の目的は村民幸福度の向上であり、継続的に組織全体で取組を促進する。第4次振興計画による行政改革の推進、健全な財政基盤の確保、効果的、効率的な財政運営の推進に基づき実施。業務の棚卸しにより見える化、あるべき姿の実現に向け、組織機構や業務遂行管理体制の観点から改善策の検討を行う。現状の問題点の整理と目指す姿の設定などの検討を行い、効果達成までの改善計画書を作成し、業務見直しを進めていく。並行して状況確認や定期的なモニタリングを行う。

答弁(副村長)

地域活性化企業人を常駐させ、業務マニュアルの作成に移行。DX推進基本計画と実施計画で見える化、共有化による業務改革に努める。

問 公共施設等の管理運営手法の見直しは

答 直営組織の在り方について研究する

質問

公共施設などを従来の手法を維持する限り「持続可能性」があるとは言えない。指定管理者の事業破綻や撤退となる事も考えられる。赤字が続いているにも関わらず、従来の方法を無理して維持していくことは得策でなく、時代に即した経営モデルに刷新する運営方針を検討すべきである。これを打破すべく、自治体が直接管理(直営)を行い、現在の課題に対応すべく新たな経営思想で公共施設管理計画を基本に事業再生型の「公共施設等管理運営センター」を提唱したい。村の考えは。

答弁(村長)

今後指定管理を辞退される可能性は十分考えられる。業者委託においても同様であり、労働力不足、高齢化などにより今後現状を維持できるのか懸念される。この問題は重大な課題であると認識している。施設の在り方も含め、持続可能な管理運営手法を検討する。委託費用と直営費用、柔軟性とスピード感のある効率的な運営、必要な技術や知識を持った職員の採用、サービスの質やノウハウの確保などを比較し、必要に応じ提唱された「公共施設等管理運営センター」など、新たな直営組織の在り方について研究する。



緑川
茂
議員

問 遊休農地の現状と増加防止対策は

答 農業担い手応援事業にて支援する

質問

現在農地は、農業従事者の高齢化と担い手不足等により、遊休農地が年々増えていく傾向となっている。本村の農業振興及び景観維持と環境保全、さらには鳥獣害対策面からも増加防止対策が必要である。次の3点について伺う。

- ① 過去10年間で非農地となった面積及び現在の農地面積全体に対する遊休農地の割合
- ② 農地中間管理機構、農地バンクの活用状況
- ③ 今後の遊休農地増加防止を図るための対策

答弁(村長)

① 令和5年までの10年間で荒廃農地として非農地化したのは82ヘクタール、現在の遊休農地の割合は、農地面積全体の1.9%であり、年々増加傾向である。

② 農地中間管理機構を通して2地区が農地集積を行っている。また、農地バンクに登録している農家は4軒で21筆あるが、賃貸契約に至っていない状況である。

③ 担い手不足の対策として今年度から「未来へつなぐ多様な農業担い手応援事業」を創設し、

再質問

機械導入の補助や農業参入への支援を行っている。また、中山間地域等直接支払制度も有効な手段である。

答弁(村長)

村内の農地は平地部と比べて作業効率面で不利なこともあり、貸し手に対して借り手となる担い手がいないという問題がある。今後、借り手となる担い手に村独自の支援策も視野に入れて検討していく必要があると思うが。

答弁(教育長)

このことである。本村の場合、福島県の平均値に対してどのような水準にあるのか。また、この結果をどのように評価し、今後の学力向上にどう繋げていくのか。

答弁(村長)

建設会社の農業への参入は、将来的な展望を考えた時に大変良い施策だと考えている。それらを含めて業界、そして一般の農業をやるという人のため、しっかりと支援、サポートをしていく。

問 学校教育の学力向上への方策は

答 系統的な学びの実践教育を推進する

質問

今年度の全国学力テストの結果が公表された。福島県の小学生の国語と算数、中学生の国語と数学の正答率はいずれも全国平均を下回っており、その中でも算数と数学については5回連続で下回っている

農家を守ることは村の自然風景を守ることにつながる。今度、新規就農者で酪農を始めた方がいるが、村も応援して、成功事例をつくることにより、また次の担い手ができるものと思っている。要は農家は収益、採算が取れないという面もあるのでそれらを含めて検討していく。

県平均と比べ小中学校の国語と小学校算数は若干下回っているものの、中学校数学は上回っている。平均正答率によつて公表されるため、少人数である本村においては正解の分布が分散される。そして平均正答率の高低をもつての公表であるため、真の学力ははかりにくいものと考えている。学力向上は学校教育最大の課題であることから、各学校の少人数の良さを生かし、タブレットの活用と児童生徒一人一人の状況に応じた指導と学習の更なる強化を促していく。また、幼・小・中学校とつなぐ教育により、系統的な学びを実践する教育を推進していく。

再質問

これからの担い手としては、ある程度規模の

地域の景観を守る耕作された農地





森田 重男 議員

問 中山間事業助成金の増額は

答 交付金の上乗せは制度上できない



景観を守る草刈作業

質問

第6期を迎える中山間地域直接支払制度は、高齢者や過疎化、農林業の担い手の減少により耕作放棄地の増加が目立ち、多面的機能の維持が困難となっている。自前の管理が容易でないことから雇用、機械に頼る状況である。第6期の取組が難しい組合が数多くある状況であるが、現在、支払いされている急傾斜、緩傾斜地の助成金の増額や組合管理者の助成支援策に取り組みべきと思うが。

答弁(村長)

村では第6期対策に向けて全集落に対しアンケートを実施した。協定を締結している全68集落のうち、次期対策に参加すると回答した集落は54集落で約8割となっている。参加しないと回答した集落は10集落あり、検討中は4集落。参加しないと回答した集落については、協定参加者の高齢化が進んでいることと、協定面積が小さいなどの要因が見受けられる。また、参画と回答した集落の中でも煩雑

な事務を委託できるなら取り組みやすいと回答した集落が18集落ある。交付金の上乗せについては、制度上できない。

一方で農地を守るという観点からも本制度は有効であり、引き続き取り組んでいけるよう村としても継続を促し、立地部の過疎化、省力化を図るため、集落からの事務事業の委託を受け入れられる体制の整備も検討するほか、さらに農山漁村活性化基金を活用し、農用地の管理に用いる機械導入への補助事業も検討していく。

農地には水源、涵養や自然環境の保護、景観形成と文化の継承など、国土保全に必要な多面的な機能を有している。本村にとって農地の適応な管理等保全は必須であるため、来年度の第6期に向けて多くの集落が参加できるように努める。

再質問

制度上、金額の上乗せはできないということだが、村として何らかの対策は。

答弁(村長)

中山間事業は、景観を守るための大事な事業である。今の景勝地、平地、低斜面に対する補助額の上乗せは制度上できないので、それとは別に、別な方法で検討したい。

再質問

アンケート調査を行い、やらないという集落が何件かあるということだが高齢者において、やらない場合の対策は。

答弁(村長)

やらないではなくて、高齢になつてやれないというのが現状ではないか。今後の対策として、どんな対策が一番のベストな方法なのか、しっかりと検討していく。

再質問

確かに高齢者などにより、容易ではないと考える。大変だからといってそのまま放置はできない。本村は農業、畜産などの事業で結構、経営が成り立っている。セイタカアワダチソウが道路沿い、草地とか、

答弁(村長)

景観上、窮されている。今後どのような方法がいいのか、村で機械を持ってやるのか、シルバーをお願いするのか。シルバーも高齢化になつて人員も少なくなつていくような状態、農家の方も高齢化できない。そういうのもいろいろ検討したい。

再質問

畜産農家の話では、蔓延すると草地在り、牛が食べないので問題になっている。増えないような状況にしたと考えるが。

答弁(農林商工課長)

多分、種が増えていくと思うので、適期、除草を行うように村民に対しても周知していきたい。

意見

中山間地、アワダチソウ対策について検討、努力をお願いしたい。



森 隆之 議員

問 村の介護認定者は増加するのでは

答 全国と違って、減少傾向になっている



高齢者介護の重要拠点「ひだまり荘」

質問

介護認定を受けて施設やサービスを受ける人は年々増加していて、数年後は利用者数がピークを迎える。村の介護施設は、民間で運営している「特別養護老人ホームさめがわ」・社会福祉協議会で運営している「ひだまり荘」の2つの施設がある。みやぎ会は民間であるため経営にできないが、「ひだまり荘」に関して、今後の運営方針や人材育成、スタッフの人員確保等、村長の考えは。

答弁(村長)

本村では65歳以上の高齢者人口が令和3年に1279人のピークを迎え、国が後期高齢者の増加の始まりと示す令和7年度以降においても、村は増加することなく減少傾向は変わらないと推計している。村では直接行う保健指導や保険運動教室のほか、村社会福祉協議会に対して補助金を交付するとともに、地域包括支援センター業務や在

再質問

宅高齢者お助け業務、生活支援体制整備業務などを委託し、各地の地域サロンなどの体制を通じて健康寿命を伸ばし、介護サービスに頼らなくてもよい生活習慣と環境づくりに努めている。

再質問

介護スタッフの確保や人材育成は。

答弁(村長)

広報誌にスタッフ募集を掲載するほか、チラシの各戸配付などを行うことで人員確保に取り組んでいるところ。今年度からは村職員を社会福祉協議会事務局長として派遣し、運営や経営面のさらなる支援の強化に努めている。また、事務局長が全スタッフに対して面談を行い、人材育成などに努めている。社会福祉協議会は村の高齢者福祉、介護保険事業を支える重要な機能を有しており、今後とも多方面からの支援に努めたいと考えている。

再質問

村は、介護認定率がそれほど多くならないという回答だが、利用する人がいる限り、介護スタッフは必要になる。現在スタッフはぎりぎりの状態で運営していると聞くと、人件費や待遇等、適正な指定管理料を支払うことができるのか。

答弁(村長)

介護スタッフの業務は本当に激務だと思う。それに見合った賃金の見直しも必要なことであると思う。今後は社会福祉協議会と相談をしながら検討していきたい。

◀次のページは

一般質問

窪木浩一議員・青戸義之議員



問 自然と景観を守るべく対策は

答 条例の制定を検討する

質問

太陽光発電の設置等で土砂崩れ・景観問題・火災・破損の際などパネル内の有害物質による環境汚染、また設備の窃盗等の治安悪化などが日本各地で問題になっており、他にも外国人や海外企業等が地方の土地を買収、水資源や森林資源を取得し、地元住民とトラブルに発展する事件や産廃・不法投棄被害に繋がった例がある。

村でもこういった被害が今後無いとは限らない。村の豊かな自然・景観を守るべく対策を講じるべきでは。

答弁(村長)

太陽光発電設置などで起こり得る土砂災害や景観問題、環境汚染など危惧されることは村としても考えている。

村内にも大規模太陽光発電設備が設置されており、幸い現在まで危惧されるような事案は無いが、今後発生の可能性を考え、十分に注視していきたい。

再質問

個人・企業の投資、土地の売買等自体を否定はしないが、山林火災や自然災害、パネル内の有害物質による土壌や河川汚染、不法投棄や施設放置等も各地で問題化しており、自然災害や環境汚染が生じた場合の村の対応は。

答弁(村長)

自然災害による土砂災害、青生野のメガソーラーは平坦地の箇所が多いので、土砂崩れなどの災害は少ないと考えるが、それらを踏まえて今後は指導したい。

答弁(農林商工課長)

指摘の通り、様々なリスクが考えられ、事業者と村で協議・対策を重ねていく。

意見

既存の設置箇所・業者に限定した事ではなく、村内で今後、太陽光発電を設置する際に、村の定めた安全基準の条件を満たさないと設置出来ない仕組み作り、災害を未然に防止できる様な安全策をと考える。グリーンエネルギーと言われるものでもメリット・デメリットがあり、事故や災害が起きなければ良いが、リスクを認識した上で対策を重ねて欲しい。



処分方法など課題も多い太陽光パネル



本郷 弘義 議員

問

山林に放置される 木材の有効活用は

答

端材の利用も考え薪の 買取価格も検討する

質問

山林の伐採材の端材は山林に放置されている。「さぎり荘」のポイラーにバイオオマス燃料として利用すればCO2の低減につながる。薪の買取価格を見直し、燃料として利用してはどうか。

答弁(村長)

ご指摘のとおり、端材は曲がり材など山林に放置されている。これ



放置された資源

再質問

らを利用できれば森林の保全、雇用の創出、地域経済の循環も見込める。堆肥センターにおける、薪の買取価格や搬入木材の規格について検討し、有効活用できるように検証したい。

軽トラに積んで持ち込んでも採算が合わないので山林に放置されてしまう。薪は循環できるが、化石燃料は将来

枯渇する。森林は環境に大きな役割を担っており、山林等の所有者も収入を得ることができれば意欲と生きがいの励みとなり、健康維持にもつながる。そのためにも受入価格検討を願う。

答弁(村長)

端材は、砕いて肥料関係に利用することで山林の景観もよくなる。今後、利用方法を検討していく。また、薪の価格は燃料費も高騰しているので買取価格も検討したい。

答弁(教育長)

な地元の匠の技を生かしてほしい。

木材は快適性、経済性や耐久性等において、優位性があり、森林の活性化に寄与できる。また、脱炭素社会の実現にも資する。木材の利用の促進に関する法律等により、補助金の対象の拡大や補助率のかさ上げにつながる可能性もある。建築にあたり、地場産材の活用を図り、新しい学校の環境づくりと村の産業である林業の振興に寄与したい。

再質問

学校の建築にあたり、未来をつくる子供たちのために良い環境を整備してほしい。また、地元企業も工事に関われるような機会を得られるよう望む。

答弁(教育長)

学校の建築を考えた場合、県産材の利用などの場面が想定される。建築工事費には木材の利用により、有利に働く

意見

地元の木材を使い村内の業者も活用する。学校は学びの場、集団生活の場、地域公施設としての役割がある。鮫川村のシンボルとなるよう願う。

こともある。また、工事の内容により、村内の企業で対応できる部分もある。主体的にお手伝いをいただくこともできる。



地場産の杉材



遠藤 貴人 議員

問 日本の成り立ちである 神話を学ばなければ

答 戦後は日本の神話を 学校教育で扱わなかった

質問

子供たちに日本の成り立ちである神話についてどのような教育がされてきたか。

答弁(教育長)

神話についての教育は、学習の基準である国の学習指導要領において、神話を読み聞かせ、我が国の伝統的な言語文化に親しむことである。現在は2年生の国語で「因幡の白うさぎ」を学習しているが、学習指導要領にあるように読

み聞かせを聞く内容となっている。

再質問

郷土愛を育む教育についてはどうか。

答弁(教育長)

小学校のキャリア教育の一環である鮫川学の中で、歴史探訪や文化財巡りなどを企画している。また、語り部による読み聞かせや、鮫川の伝承である紙すきなどを実施している。

再質問

戦後教育で失われてしまった、日本の神話を学ばなければならぬと感じているが。

答弁(教育長)

故郷の歴史、日本の神話を学ぶことが、社会構図を変えることについて、私もそう感じている。学校教育で扱われるべきものだったが、戦後は日本の神話について扱わなかった事実がある。それが、学習指導要

再質問

領改訂によって、また扱われるようになった。日本の伝統や文化として語り継がれていく教材になってくれれば。

2年前、海ノ民話のまちプロジェクトによって『鮫川のサメ伝説 化身した黄金の鮫』として鮫川の民話がアニメーションになった。当時は上映会などもあったようだが、その後はどうか。

再質問

鮫池へ訪れる道は、子どもが簡単に行けるような道ではない。鮫池に誰でも訪れることができ、鮫川村の根源といたことが体験できるような場所になってほしいが。

答弁(教育長)

埴町民それぞれの生活の中に、寺西代官が受け継がれてきた。鮫川村でも、これまでの伝承や伝統を村民と共有する場を設けていければと考えている。

答弁(教育長)

整備については、私有地でもあり、池が現存しているわけでもないのに研究の余地がある。ただ、鮫池というものを村外の方に知っていただいたので、鮫池の物語に触れるような機会はつくりたい。



鮫川のサメ伝説
「化身した黄金の鮫」



伝説のサメがすんでいたとされる鮫池は、
鮫川村の名前の由来にもなった

再質問

教育長の出身地(埴町)では寺西代官が親しまれているかと思う。先人の立派な生き方や、考え方に触れることで「自分はどこまでできるか分からないけれど、このような生き方を目指していくんだ」といった強い心を持つ、きっかけになると感じているが。

次のページは

研修会レポート

研修会 レポート

町村議会議員研修会



10/25

町村議会議員研修会

2名の講師から、「岐路に立つ議会改革」「今後の政局・政治展望」をテーマに講演があり、今後の議会改革の方向性を見いだすための意義のある研修であった。



ジャーナリスト
星 浩



明治大学教授
牛山 久仁彦



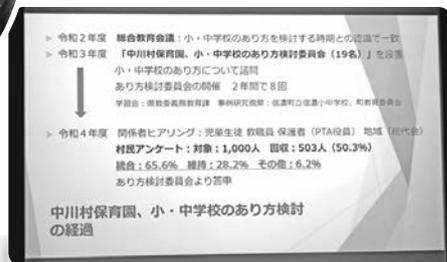
10/31

長野県中川村

児童生徒が約380人の村であり、児童生徒数の減少等を踏まえ、令和2年度総合教育会議、3年度に「保育園、小・中学校のあり方検討委員会」を設置。令和13年度施設一体型の小中一貫教育校（義務教育学校）開校に向けて、着々と教育環境を整備していた。



中川村教育長



11/1

長野県佐久穂町

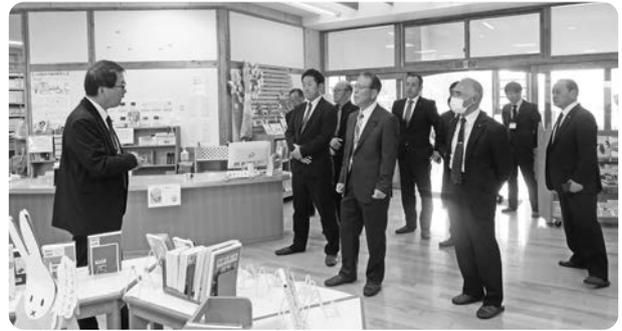
佐久穂小学校・中学校(施設一体型の小中一貫教育校)

小学校4校、中学校2校を統合し、平成27年4月に施設一体型の小中一貫教育校を開校し、現在児童生徒数687名が在籍している。

校舎内に県立小諸養護学校小学部・中学部がそれぞれ併設されている。また地域の方々や保護者との連携を強化し、町全体で子どもたちの学習環境整備に取り組んでいる町であった。



佐久穂町教育長



ふるさと鮫川への想い シリーズ⑤2

ふるさとの思い出

私は高校から実家を離れて下宿生活だったのですが、鮫川村で暮らしていたのは中学生までの15年間で、その間に、鮫川村で過ごした日々より東京に住んでからのほうが長くなりましたが、ゴールデンウィークやお盆などに数

◆プロフィール

- ・昭和55年生まれ
- ・渡瀬小学校、鮫川中学校卒業
- ・安積女子高校(現 安積黎明高校)卒業
- ・東京大学大学院修士課程卒業
- ・会社員



くぼた さきこ
久保田 咲子さん(旧姓 芳賀)
東京都中野区在住(渡瀬字江竜田出身)

回は帰省して、鮫川村の情報を入れています。

実家の近くには江竜田の滝があり、帰省したときには夫や子供たちと滝まで歩いて散歩に行きます。ゴールデンウィークの頃に行くと、新緑に囲まれた滝の景色が何とも言えない美しさ。子供が大きくなつて自分で歩いて登れるようになったので、一見ヶ滝、そうめん滝、青葉の滝、と一番上まで滝めぐりをします。自分の子供時代は青葉の滝の岩をよじ登って、その上の景色も見ていました。なかなか秋に帰省することができないのですが、いつか紅葉の時期にも滝に行きたいですね。



いま長男が小学生なので、運動会や遠足、夏休みといった学校のイベントをきっかけに、鮫川村で過ごした自分の小中学生時代のことを思い出しています。夏休みで思い出するのは歴史民俗資料館。休みの間に何日か、役場に勤めていた母が出勤してから仕事が終わるまで、一日中資料館で過ごしていました。よく退屈せずいられたなと今となつては思うのですが、すぐ本を読んでいたという記憶は無く、覚えているのは鉄腕アトムやジャングル大帝などの手塚治虫作品を繰り返し読んでいたこと。あとは館内を

うろろし、展示してあった土器や農機具を眺めていました。資料館の奥のほうにあつたその展示エリアは少し暗くて夏もひんやりと涼しく、お気に入りの場所でした。今もジャングル大帝などを読むと、資料館の空気感や匂いを思い出します。今は図書館としてはやっていないけれど、建物はそのまま資料館として残っていると聞いています。館内はあのころの匂いのままでしょうか。

秋の遠足といえば鹿角平。学校菜園で育てたサツマイモやらサトイモを使って、鹿角平で豚汁や焼き芋など、自分たちで料理を作るといふイベントでした。鹿角平で食べる豚汁もおいしかったけど、先生が揚げてくれたサツマイモの天ぷらが最高だったのを覚えています。遠足なので歩いて行くのですが、低学年は片道だけ歩いて帰りはバス、高学年は家から鹿角平まで徒歩で往復でした。江竜田からだど鹿角平までは往復16kmくらい。鹿角平から家に帰り着いた頃にはへとへとになっていました。

秋のうまいもの祭りや冬の凧揚げ、アスレチックで遊んだこと、バンガローに泊まったこと、展望台で星を見たことなど、鹿角平にも子供のころの思い出がたくさん詰まっています。5年ほど前、コロナ前のお正月に帰省したときは、家族兄弟一同そろって連凧をあげて遊びました。子供たちも鮫川村の良いところをたくさん体験してほしく、これからも帰省したときにはいろいろ遊びに行こうと思っています。鹿角平にできたコテージにいつか泊まってみたくです。

編集後記

みんなの議会だよりを手に取っていただき、ありがとうございます。

開会式で「転んでも泣かないで最後まで頑張ります」と誓った通り、全ての園児が最後まで諦めずに頑張りました。どんな逆境にあつても、まだやれると決めた瞬間に全てが拡がっていく。そのことを改めて感じた、さめがわこどもセンター運動会(表紙)でした。
(広報編集委員)